

## VI 研究の成果と課題

### 1. 成果

#### [教師側の成果]

- ・授業組立シートを用いて授業を構想することで、終末から導入に向かって授業を構想していくので、めあてや問題解決的な学習の設定など、生徒をゴールへ導くための手立てを立てやすくなった。
- ・振り返りに表れて欲しい生徒の姿を具体的に想定することから授業を構想するので、「教師目線からの授業構想」から「生徒目線に立った授業構想」へと教師の思考を変化することができた。
- ・振り返りの記述で、生徒が難しいと感じているところや、分からないと書いてきた部分を個別に説明したり、次回の授業で補足したりするなど、補足的な学習に活用することができた。

#### [生徒側の成果]

- ・「めあて」の提示の仕方や表記を工夫したことによって、生徒は問題に対して予想を立て、問題解決のための見通しをもって主体的に取り組むことができた。
- ・振り返りの視点を再考して、生徒に「振り返りのポイント」を示したことで、その日の授業で分かったことに加えて、そこから考えたことや疑問に感じたこと、さらに追究してみたいことなど、次時につながる課題や生活に結び付けて考えることなど内容が充実してきた。また、自分の取組を振り返ったり、友達の姿から学んだりなどの記述も増えた。
- ・授業で学習したことをさらに追究したり、授業内容をもう一度まとめなおしたり、友達の意見を聞いて生まれた疑問を調べたりする生徒が増加し、その成果を自主学習として見取ることができた。
- ・以上のような点で主体的に学ぶ生徒の姿が見られるようになったといえる。

### 2. 課題

- ・今回「授業組立シート」で「振り返りに表れてほしい姿」の設定を上位の生徒、中位の生徒、下位の生徒というように設定するレベルによって授業内容や手だても変わってくることを感じた。上位を狙った授業構想なら、低位には声かけをして引き上げるなど、設定した生徒以外への手だてを講じる必要がある。
- ・評価項目が技能の場合、文章を記述させる振り返りは有効でない場合が多かった。技能の場合、練習問題を解くなど、評価の観点に合わせた振り返りが望ましい。単元の指導計画と合わせた振り返りの精選が必要である。
- ・生徒の振り返りは本時のねらいが達成できたかどうか判断する材料にもなる。今後、評価と振り返りの関連性も探っていく必要がある。
- ・「授業組立シート」はあくまでも授業を構想する際の道具である。「授業組立シート」を用いた授業構想ですべての授業がうまくいったわけではない。問題解決のための手だてがパターン化して生徒がその流れを分かりきってしまうと、疑問をもって自分から主体的に調べていく姿が見られなくなる生徒もいた。いかに必要感のある問題を設定し、その問題を解決していくための手だてを工夫するかを考える必要がある。
- ・学習意欲が乏しく受け身的な生徒や、授業の内容の理解が十分でない生徒などに対しても、振り返りに表れてほしい姿の多面的なとらえ方と、その姿が表れるための有効な手立てを考える必要がある。

#### (参考資料)

- ・中学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省
- ・平成26年度 沼田市教育研究所 研究紀要
- ・見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視 初等教育資料 平成26年4月号
- ・利根・沼田の教育 第29号 効果的な「振り返る」学習活動に向けて